

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 12 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02928

研究課題名(和文) ヨーロッパ近世における地域間統合システムの研究

研究課題名(英文) Study of the unification system between global areas in the Early Modern Europe

研究代表者

小川 知幸(Ogawa, Tomoyuki)

東北大学・学術資源研究公開センター・助教

研究者番号：70312519

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、史上初の地図帳であり1570年から1641年まで48版を出版したオルテリウスの『世界の舞台』に掲載された全地図を収集・分析することで、世界諸地域間の階層・序列化の思考プロセスと統合システム、すなわち「目的を達成させる世界」(ドメイン, domains)を明らかにすることを目的とした。その結果、大航海時代の成果といわれるにもかかわらず、アメリカ=新大陸はアフリカ大陸、ロシアと同様に世界の周縁に位置づけられ、一方でアジアは伝説とかかわる歴史世界から現れ、日本地図を大縮尺で加えることでヨーロッパの共時的世界に引き込まれたこと、またヨーロッパ西部の内陸部に次第に西進する重点化地方を見出した。

研究成果の概要(英文)：The first atlas: Ortelius' Theatrum Orbis Terrarum published 48 editions from 1570 to 1641. This study intended to clarify the order between world areas through the process of making it by analyzing all 177 maps and find the unification system in the Early Modern Europe. We found the most important areas in the West Europe as a triangle zone of the inland, that gradually advanced to the West. The New World: America was placed periphery of the world, similarly African Continent and Russia. In Asia, though the regions were originally belonged to the diachronic world as a saga, but drawn into the synchronic world of Europe by adding a Japan map by large scale. West Europe accelerated the time and converted history into the present in the the neighboring world areas.

研究分野：ヨーロッパ史

キーワード：西欧近現代史 史料研究 絵図・地図 グローバル化 政治・社会地理学

1. 研究開始当初の背景

アブラハム・オルテリウスにより 1570 年に出版された『世界の舞台』(Theatrum Orbis Terrarum) は史上初の地図帳である。その編集出版には、広く各国から新しい地理・地誌情報を募り、それらを検証した上で掲載する手法が採用され、1 年から数年おきに改訂・増補を繰り返すことで、情報量を飛躍的に増大させた。同書は 1598 年までに 28 版を重ね、掲載された地図数も初版の 53 枚から 3 年後には 70 枚、さらに 93 枚、112 枚と増加し、最終的には 166 枚にいたったとされる(1641 年の死後版)。推定総計で 2 千部をこえる売り上げを記録し、広く普及するとともに一部は東アジアにももたらされ、当時の世界認識における規準となった。

しかしその影響力は、同書が世界諸地域を分類し、ひとつの体系としてまとめあげたこと、そしてこれにより地域間に階層・序列化を生みだしたことにあったといえる。『世界の舞台』の製作プロセス、その知的活動において世界は水平方向に広がっただけでなく、重層的で密度をもつものになったのである。つまり地図の改訂・増補とは、諸地域間の統合、システム化にほかならない。ある「目的を達成させる世界」をドメイン(domains)と称するが、この地図複合こそはまさにドメインとして、ヨーロッパの「リ=イメージング」(語り直し)をおこなったのである。

2. 研究の目的

だが、オルテリウスの『世界の舞台』は、これまで単独でしか語られてこなかった。同書にはその改訂に先行して出版された何版かの『地図追録』(Additamentum)が存在する。これは増補のためのいわばプロトタイプであり、地図はそこから取捨選択され、『世界の舞台』の改訂・増補版へと収録された。したがって、この『地図追録』との比較等から地域間の関連づけの思考プロセスが明らかになるはずである。

そこで、本研究では『世界の舞台』とその関連資料をできるかぎり完全に収集し、分析することで地域間の選択と再配置のプロセスを明らかにし、ヨーロッパ近世における「ドメイン」、すなわち世界地域間の統合システムを解明することを目的とした。

3. 研究の方法

そのため、資料の収集にそれらの所蔵館であるドイツ・ベルリンのフンボルト大学、同州立図書館、シュトゥットガルト大学、ゲッティンゲン大学、ミュンヘン大学図書館、オーストリア・ウィーン大学図書館、ベルギー・アントウェルペン大学図書館、同プランタン博物館等を訪れ、資料を閲覧し、可能な場合はデジタル化での収集をおこなった。

また、本研究では地図を歴史的構築物として心像の集合的鏡像と捉えることで、イメージ分析の手法と、いわゆるエゴ・ドキュメン

ト(パーソナル・ナラティブ)にかかわる資料を援用することで、地図製作にかかわった人びとの心性・世界像の分析と比較を試みた。

4. 研究成果

『世界の舞台』は 1570 年から 1641 年までの全刊行期間において本編 35 版、補遺 13 版のあわせて 48 版が刊行されており、うちラテン語版は 16 版(異刷 4・増刷 1 含む)、ドイツ語版 5 版(異刷 1 含む)、フランス語版 5 版、スペイン語版 4 版、オランダ語版 3 版、英語版 1 版、イタリア語版 1 版であった。その全刊本における地図は 177 枚、これにパレルゴン(歴史地図)をあわせると全 229 枚におよぶことがわかった。

パレルゴンを除く 177 枚の地図を地域別・掲載期間によって分類したのが図 1 である。

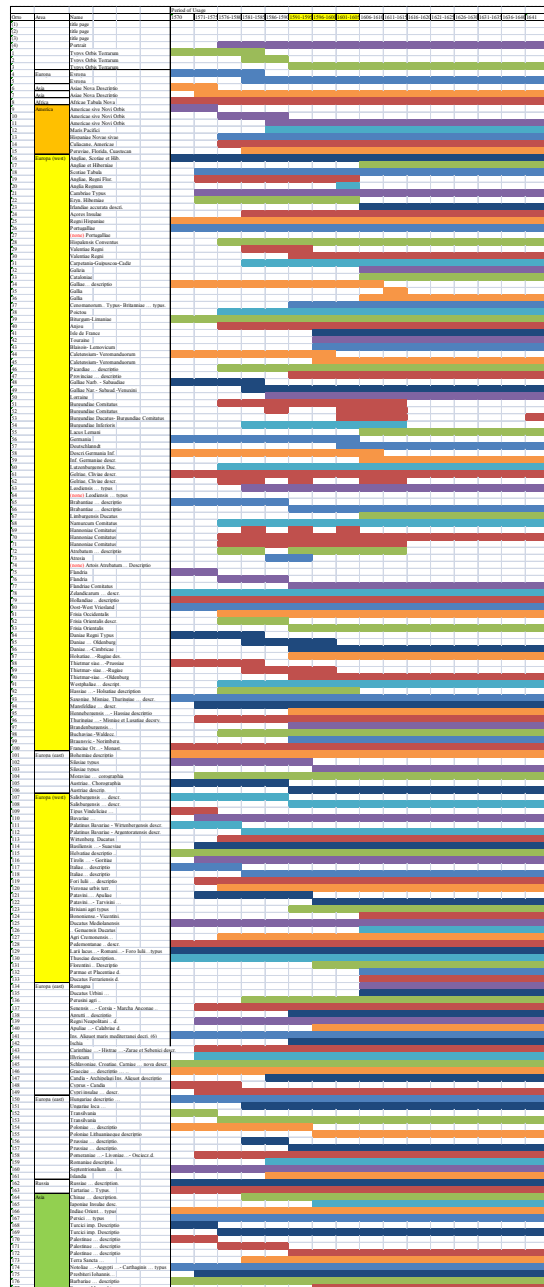


図 1: 『世界の舞台』全地図の地域と掲載版

### (1)置き去りにされた地域

縦軸は地域別であり、黄色の部分には西ヨーロッパにあたる地域の地図をしめす。したがって地図の半数以上が西ヨーロッパである。アメリカ（新大陸）では初期に全体図（地域図）が2度改訂されたが、その後は部分（地方図）を3枚増補したにとどまる。新大陸の地図は、ミラー・アトラス（Atlas Miller）の例を挙げるまでもなく、ポルトラーノ図（羅針儀海図）を中心にスペイン、ポルトガル両国で大きく発展していたことが推定されるが、『世界の舞台』にはあまり採り入れられなかった。太平洋側の北米先端部ではアニアン（安寧）など一部のアジアの地名が新大陸に表示されており、旧態依然としている。また、ロシアおよびアフリカ地域では一度の改訂も増補もおこなわれていない。

### (2)アジアの漸次的進展

他方、緑色の部分はアジアをしめす。アジアは近東（トルコ）から中国、極東（日本）までの広範囲にわたるとはいえ、初版から約10年後までには中国の地域図が新規に加えられ、その約20年後には日本の地方図が現れる（1595年）。同じアジアでも、インドの地方図が全期間にわたって一度の改訂もおこなわれなかったのと対照的である。日本の地図はポルトガルのイエズス会士ルイス・テイシェイラ（Luís Teixeira）によるいわゆるテイセラ日本図である（図2）。

さらに近東ではパレスチナの地方図が2度にわたって改訂され、途中で聖地の地図がつけ加えられた。したがって、アジアでは近東と極東の両極において地理・地誌の更新がなされたのである。



図2：テイセラ日本図（部分）

### (3)地図の拡充

ところで、全体の層序分析では、1590年頃と1605年前後に拡充期があることがわかる。図1横軸上部の黄色でしめした部分である。上記日本図もこのときに増補されており、各地域において大縮尺化が始まる。

また、先述の177枚のうちには差し替えられた地図も含まれており、この差し替えの事

実も重要である。差し替えは世界全図をはじめとして大縮尺化に先行し、アメリカ地域図や、地方図としてシュレーゼン、バイエルン、プロイセン、トランシルヴァニア、トルコ、ソールズベリなどでおこなわれている。一見すると関連性が乏しいようにおもわれるが、これに対して、大縮尺の地図が増補された地域は現在の西ヨーロッパに集中しているため、それらの地域の周辺にあたるものであったことがわかる。つまり、特定の地方の地理が詳細になるにつれて、その周辺の地理についても更新されたのであろう。

図3は改訂・増補の順に追記された地図をその該当地域に便宜的に当てはめたものである（そのサイズが小さいほど大縮尺になる）。ここから、大縮尺の地方図が現在のフランス、ドイツ、イタリアに集中しており、しかも増改訂が進むにつれてその地方も次第に西進することがわかる。

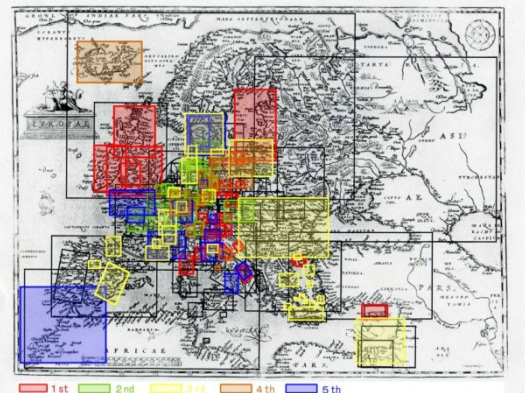


図3：ヨーロッパ地方図の増訂地域

### (4)ヨーロッパの最重要地域

大縮尺であればあるほど、ひとつの地方図に表現される地理・地誌情報は緻密になる。したがって、この囲みが小さければ小さいほど、またその重なりが多いほど、大きな関心が寄せられた地方であったといえる。それらはヴェストファーレン地方や北海沿岸部、他方でイタリア北部に集中する。いっぽうでイベリア半島ではヴァレンシアやマドリードなど一部に限定され、北欧では増訂はおこなわれていない。イングランドではとくに南部とロンドン周辺に大縮尺の地図がみられるが、それらは最初の増訂で同時におこなわれたものであり、その後は増改訂の対象とならなかった。

以上のことから、増改訂の地図の大半を占めるヨーロッパ西部の地域においても、大きく見てフランス東部から北海沿岸に向けてのデンマーク周辺、そしてイタリア北部をそれぞれ頂点とするいわば三角地帯が重点的であり、さらに言えば、沿岸部よりも内陸への志向が強かった。少なくとも16世紀末から17世紀の初めにおいて、ヨーロッパの最重要地域は、『世界の舞台』ではこの地帯

であるとみなされ、イングランド、イベリア半島その他の地方はヨーロッパのなかでも周辺に位置づけられていたといえる。

#### (5) 世界諸地域の連関

そしてグローバルな視点からみれば、アメリカ＝新大陸はさらにその周辺にあり、ロシアとアフリカ大陸もこれと同様であった。スペインに対する等閑視は、地図の発展という観点からみても、オルテリウスがその称号を帯びたスペイン王室の天文学者という立場から考えても理解しがたいが、しかしオルテリウスが内陸部分を描出することに強い指向性があったとすれば、その稠密度という点で上記の地域は新規に取り扱うにはいたらなかったのだろう。オルテリウスがその名を挙げている地図製作者ディオゴ・オーメン(Diogo Homen)による南米大陸の地図が、現在の水準からしても海岸線の再現において遜色ないほど正確であったにもかかわらず、である。

他方で、それらの地域よりもアジアの地理・地誌のほうが注視されていたといえる。近東についてはパレルゴンへとつながる「人類史」との関係性を推測することができるが(その意味で『世界の舞台』とは、時空をこえて人類の活動領域＝舞台すべてを描ききることにあつたといえる。もちろんその場合の人類とはキリスト教徒を規準とすることは疑いを容れない)、極東にかんしてはポルトガル経由で日本の地図を入手し、インドや中国よりも大縮尺で掲載したのである。したがって、この地図帳のなかで日本はヨーロッパの地域といわば同格の扱いであった。

#### (6) アジアの位置づけ

ただし、地図帳における各地図の掲載順としては、世界全図 地域図(アジア アフリカ アメリカ) 地方図(イングランド イベリア半島 ……)と進み、小縮尺から大縮尺へと切り替わりながら、その後ロシア地方図 アジア地方図(中国 日本 インド ペルシア トルコ パレスチナ 聖地……)となっている。この順序は改訂・増補をつうじて不変であった。世界全地域のなかでアジアはロシアよりも後ろに位置づけられていた。

また、近代の地図帳から考えればアジア地方図における諸地域のこの並びは特異なものである。これを共時的な空間の広がりとその相互影響力という現代的な観点からは、かならずしも整理できないのではないだろうか。

#### (7) エゴ・ドキュメント

ここで援用されるのが、オルテリウスがもっとも多くその地図を採用している地図製作者クリスティアン・スクローテン(Christian Sgrooten)によるエゴ・ドキュメント(パーソナル・ナラティブ)である。スクローテンはオルテリウスと同時代の、し

かもスペイン王室の国王天文学者(Cosmographe du Roy)としてその同輩でもあった。スクローテンはとくにヴェストファーレン地方の地方図を製作し、その精度は都市間の距離・方角ともに現代の水準に迫るものであった。

2冊目の地図集(アトラス・マドリッド)においてスクローテンは、フェリペ2世への献辞として次のようにその世界観を吐露している。「アジアには、タタールとペルシアの帝国が存在し、アフリカにはイスラームを迫撃するというキリストの王、プレスター・ジョンの国がございます。いっぽうキリスト教徒の敵であるトルコ人は各地に跋扈し、奴隷たちをくびきにつないでおります。」

要するに、伝統的なキリスト教的世界観のままである。オルテリウスがはたしてこれと同様の見方をしていたかどうかは不明だが、スクローテンの言説は、通時的な世界(伝説)と同時代の共時的な世界が容易に融合しうるものであったことを示唆している。そこで『世界の舞台』におけるアジアの並びを見れば、キリスト教世界(Chrisitendom)周辺のさらに向こう側にあり、異教徒を挾撃する人びとの住む王国が上記の諸地方に該当するように推測されるのである。

#### (8) 信じられた世界

このように、アジア地域は伝説より現れながら、日本地図をいわば引き綱のようにしてヨーロッパの共時的な世界へと結合されていた。他方、新たに「発見」されたアメリカは、その地誌が過去の伝説と結びつけられることでヨーロッパの一部となったのである(小川,メアリー世のアトラスにおける支配の徴表,2018)。したがって、逆説的であり、科学とは別個の人文的教養が、世界諸地域の統合の要因のひとつであったことは間違いない。

いっぽう、ヨーロッパ大陸では、内陸部における(おそらく都市を拠点とした)人間の活動の増大が重力を生みだし、とくに西ヨーロッパの上記の三角地帯へと漸次西進しながら世界の中核部分を形成したといえる。

オルテリウスが参照した個別の地図が製作された経緯は、政治的・経済的重要性などさまざまであっただろう。ちなみにスクローテンの地図は、スペインによるネーデルラント攻略のために軍事利用されるはずであった。しかし、それらが科学的な正確さを基準に取捨選択され、さらにひとつの地図帳のなかで体系化されることで、そうした地図の集まりが重点的を形づくることになった。それは周辺に位置する地方の地理・地誌を最新のものへと書き換えながらヨーロッパの共時的な世界を拡大し、やがてアジアやアフリカなどの残された通時的・歴史的世界をすべて呑み尽くすにいたつたのである。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

小川知幸, これからの暮らしを考える 日本とヨーロッパの自然観から, 東北大学総合学術博物館ニュースレター-Omnividens [オムニヴィデンス], 査読無, Vol. 57, 2018, 2-4

小川知幸, メアリー世のアトラスにおける支配の徴表 Distinguishing Marks in the Queen Mary Atlas for the Domination, 東北大学附属図書館調査研究室年報, 査読無, 第5号, 2018, 1-10

[https://tohoku.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_uri&item\\_id=125032&file\\_id=18&file\\_no=1](https://tohoku.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=125032&file_id=18&file_no=1)

小川知幸, ゲオルク・ヴェルフェルとその文庫について, 東北大学附属図書館調査研究室年報, 査読無, 第4号, 2017, 7-25

[https://tohoku.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_uri&item\\_id=106981&file\\_id=18&file\\_no=1](https://tohoku.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=106981&file_id=18&file_no=1)

小川知幸, ローマの戦争と法について 1915年ベルリン大学エミール・ゼッケル講演録, 東北大学附属図書館調査研究室年報, 査読無, 第3号, 2016, 11-27

[https://tohoku.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_uri&item\\_id=66134&file\\_id=18&file\\_no=1](https://tohoku.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=66134&file_id=18&file_no=1)

小川知幸, アンインテンディド・ジャーニー スミソニアン自然史博物館と国連防災世界会議, 東北大学総合学術博物館ニュースレター-Omnividens [オムニヴィデンス], 査読無, Vo. 48, 2015, 2-4

[http://www.museum.tohoku.ac.jp/press\\_info/news\\_letter/pdf/omnividens\\_no48.pdf](http://www.museum.tohoku.ac.jp/press_info/news_letter/pdf/omnividens_no48.pdf)

〔学会発表〕(計4件)

小川知幸, 国王の天地学者 クリスティアン・スクローテン (1525? - 1603), ヨーロッパ構造史研究会, 2018.3.27, 岩手県立大学アイーナキャンパス (岩手県)

小川知幸, 古地図からヨーロッパ史を読む メアリー世のアトラス, みちのく図書館情報学研究会, 2018.1.21, 東北大学 (宮城県)

小川知幸, 国王の地図製作者として生きる, ヨーロッパ構造史研究会, 2017.3.29, 岩手県立大学アイーナキャンパス (岩手県)

小川知幸, 歴史と記憶 画像資料の可能性と課題, ヨーロッパ構造史研究会, 2016.3.29, 岩手県立大学アイーナキャンパス (岩手県)

〔図書〕(計1件)

小川知幸, 他, 八坂書房, タイトル未定, 2019 (刊行決定)

〔産業財産権〕

出願状況 (計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況 (計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等  
東北大学総合学術博物館スタッフ紹介  
<http://www.museum.tohoku.ac.jp/about/staff/ogawa.htm> (不定期更新)

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

小川 知幸 (OGAWA, Tomoyuki)  
東北大学・学術資源研究公開センター・助教  
研究者番号: 70312519

(2) 研究分担者

( )  
研究者番号:

(3) 連携研究者

( )  
研究者番号:

(4) 研究協力者

( )  
研究者番号: